

令和七年十一月吉日初版作成

己は澄みてただひそかなり

高嶋 善三郎

目 次

- 業想念は神さまの光が追い出している・・・・・・・・・・3
- 相対的な見方と絶対的な見方・・・・・・・・・・5
- 現われはすべて波である・・・・・・・・・・6
- 今現われているものは今つくったものではない・・・・・・・・8
- 今悪く見えるものは今悪くない・・・・・・・・・・9

お 願 い

既に作成した資料（バックナンバー）は、ウェブサイト『白光北陸』のブログ欄に掲載しています。

より分かりやすくするため、ご感想があれば、お聞かせください。

次の連絡先にお問い合わせ致します。

（スマホ）0900-3346-6619

（メールアドレス）zensan@peach.ocn.ne.jp

業想念は神さまの光が追い出している

五井先生の歌に

「うつるもの おのづうつりて おのづ消ゆ 己は澄^{おのれ}みて ただひ
そかなり」がありますが、このような心境になるにはどのように留意
していけばよいでしょうか。

端的に言えば、自分と自分の身の回りに起こる森羅万象に対する見方
を宇宙の真理に基いてあらためることです。

私たち人間は、もともと光燦然とした光の存在であり、この地球の次
元上昇達成のため、志願してこの地球に降りて来たのです。何故その記
憶がないのかというと、自らの光によって地球の波動を変容していた時、
地球の低い想念が光によって不安と恐怖となって崩れゆく姿を、光の存
在である人間が自分だと誤って認識したことによるのです。そしていよ
いよ地球の次元上昇の時を迎え、自らの本心が活性化し、誤てる想念
(業)を浄め去ろうとしているのです。私たちがそのことを理解し、本
心が真の自分だと認識し、自分の周りに起こる森羅万象に対する見方を
あらため、それに沿った生き方を実践していった時、私たちはもともと

の光燦然とした光の存在である自分を取り戻し、静寂そのものである、
宇宙根源の光をこの地上界に四方八方に放射する、澄み切ってひそかな
る心境になり得るのです。

そのことを具体的に分かりやすく解説されている五井先生のお言葉
が『大決意』の「ここがポイント」において、解説されています。

私たちを苦しめている不幸や病気などの業想念は、私たちの潜在意識
にあり、それを神さまの光が、追い出している姿なのです。そのことが
理解できないのは、本心というものと業想念というものの区別がつい
ていないからだと言われています。

「悪といい

不幸といい

病気といい

妬みといい

恨みといい

怒りといい

そういう業想念は

神さまの光が追い出しているわけです

追い出され追い出されて

潜在意識から追い出されて

表面意識に現われ

想いとなり行為となってゆく

追い出すものは神さまの光で

追い出されて業想念は消えてゆくのです

それを掴んで ひきもとそうとするのが

ふつうの人間のやり方です

昔の修養というのがそうでした

いちいち反省する

反省するのは結構です

反省がなくては困ります

悔改（くいあらた）めをする

それは結構だ

けれど省（かえり）みすぎちゃって

知らないうちに業の中に入っちゃうんです

自分は悪いものだ

人間というものはだめなものだぐに入ってゆく

それは本心というものと業想念というものの

区別がついていないからです

本心は神の子である

神の分霊（わけみたま）であって

光明燦然としているものである

ということがわからない為です

この世界は善悪混淆（こんこう）しています

墮落する人が多い

自分勝手なことばかりする人が多いから

人間の世界は悪いものだ という性悪説が生まれたんです

それで人間はだめだと思う

駄目だくと言っているうちはダメなのです

駄目なものは何かというと 神さまから離れた人間の想いなんです

神さまを離れている想いはダメなんです

神さまにくっついている想いは

神さまと一つになっている想いは

愛なんです

何故ならば神は唯一神なのです

一つだからなのです

そこから守護神として守護霊として

或いは分御霊として何十億と分かれているわけです

元をただせば一つの神さまの中にある

人間というものは分かれているけれど

実は元は一つなのです

神の光が分かれています

それがわからないで

地上の肉体の世界ばかり見ている人達が

神さまである人間を忘れてしまつて 業想念を作つたんです」

相対的な見方と絶対的な見方

業想念に覆われた肉体人間の自分と光燦然とした霊体人間の自分

とは、前者が人間相互が別々の存在であるという相対的な思考と見方をしているのに対し、後者は太陽の光線のように、相互が別々ではなく、ワナネスであるという絶対的な思考と見方をしているという決定的な違いがあるのです。

「あなたと私は別なんだ

向こうとこちらは別なんだ

と全然別個に考えた

いわゆる相対的にものを考えた

ところが相対的というのは現われの世界だけであつて

本当の霊の世界においては

絶対なのです

絶対から出ている光なんです

太陽から光線が出ていますね

それを見て

ああ光線は別々だとは思わない

それと同じように

人間は「絶対」から出ている光線なのです

人間は神の子なのです

それを神というのを忘れて

人間という肉体人間になつてしまつた

肉体人間というのは物質なんです

霊の人間というのは霊妙不可思議を超えたひびき 光なんです

要するに光体といって光の体なんです

それがわからないと何時までたっても人間はよくならない

皆さんが年中私の話を聞いてたり

浄められたりしていますと

いつの間にか肉体から霊体に化してゆくのです

肉体的人間というものより

霊的人間のほうが非常に感受性が強い

運命の危険な線もさけることが出来るようになる

守護霊や守護神の注意がすみやかにわかるのです

自然に危機というものをさける力が強くなる

たとえば

放射能というものがある

放射能の波はやはり物質の波ですから

放射能を受けてもあまり感じなくなる

ということになるでしょう

住んでいる次元が違ってくるわけです

肉体にいながらも

自分の住んでいる世界が霊界になってしまう

そういう人がたくさん出れば

不幸がそれだけなくなるのです

人間は物質だ肉体だと思っている

その意識はなかなか消えません

相当長い期間 つめこんで聞かされないと

人間は肉体だと思っています

人間は物質だと思っています

現われはすべて波である

この世の中の前では、波動であり、病気や疲れなどは物質の汚れた波であり、光の波の中に入っていれば、それらはすべて消えてゆき、光に変容されるのです。

「頭が痛い ああ病気と思います

ところが私どもの世界では

頭が痛くても 腹が痛くても

別に病気だと思うことはありません

波がかかって来て 消える姿だと思っているんです

みんな波だと思っているんですよ

全部現れがすべて波だと思っている

科学でも今は波動説でしょう

私はすべて波動だと思っている

波にも汚れた波と 光の波とがある

光の波の中に自分が入っていれば

汚れた波に感染しないから

自分は病気になる

たとえ病気になったとしてもすぐ消えてしまう

すぐ治ってしまう

私は朝から晩まで柏手（かしわで）を叩いて浄めています

三百人やろうと五百人やろうと同じです

そんなに疲れません

なぜ疲れないかというと

疲れるというのは物質の波動なんです

その波を超えていますから

いくら物質の波が ぶつかって来ても

スッと光の波の中に入る

降りちゃ上り 降りちゃ上りしている

ということは

物質の波 肉体の波の中にいながら

いつでも光の波の中にいるのです

だから皆様も

人間というものは光なんだ

太陽と同じような光なんだ

ということ

いつも頭の中に思わなければいけません

太陽のような光

それは神さまなんだと

光が小さいか大きいかは別として

自分は光の体なんだ

ということも思っていることです

だからお腹が痛もうと頭が痛もうと どこか痛もうと

病んだということは

病気ということは

過去世の因縁が消えてゆく姿なんです

自分の本体はいつも光なんです」

今現われているものは 今つくったものではない

今現われている現象は、今つくったものではない。過去世でやったことが、光の中で消えていつているのであり、それをとやかくいってもしかたがないのです。

「或る人が『まだ自分の心が足りないからこうなる』とおっしゃるからそれは違う

自分が悪いからこうなった あゝなったじゃないんだと説明しました

普通の宗教では

あなたが悪いからこうなった お母さんが悪いから子供がこうなった 良人（おっと）が悪いから妻がこうなった

ということになるんだけれども

それは嘘（うそ）なんです

悪いものはみな消えてゆく姿

今のその人が悪いわけじゃないんです

今現われている不幸はというものは

今現われている悪い想念 嫌な感情というのは

今つくってたんじゃないのです。

ここを間違えてはいけません

たとえば今ご飯を食べているとすれば

そのお米は去年作ったお米ですね

今作って 今食べるわけじゃない

人間の口に入る時には

自分の目の前に現われる時には

過去に作ったものが現われる

それと同じように

人間の想いというものは 今現われている想いというものは

今現われている環境というものは

それは今作ったもんじゃなくて

過去世の因縁が過去世の想いの波が

今ここに現われて

その人の環境になっているんです

だから今現れている環境をとやかくいったって始まらないでしょう

食べちゃったものを

お前こんなもの食べちゃって！といったって
あとが出るだけの話です

食べたものは出る

やったことは必ず自分に帰ってくる

これは原則です

だから今の不幸とか今の喜びとか今の悲しみとか

今の想いというものは 今あるように見えるけども

それは消えてゆく姿としてこの世に現われただけであって

今作ったのではないのです

いいですか それをよく頭にしみこませて下さい

今作ったんであればその人を責めることが出来ます

ところが今作ったんじゃないくて

過去において行った想い お互いの想いが

ぶつかって喧嘩になり争いになるのです

だから

争った場合いじめられた場合

こちらが全然悪くなくて

いじめられたり 悪口をいわれたりするならば

それは相手が悪口をいったように見えるけれども

悪口をいわれているほうが過去世において相手をいじめた

その波が向こうからうつって今 自分に帰って来ているところなのです

それでいじめられているのです だから

今のその人が悪いわけじゃなくて

今いじめられている自分が悪いわけじゃなくて

神さまを離れたお互いの想いが

そこでぶつかって消えてゆく姿なんですよ

わかりますね

そうというのが本当の宗教というんです

今悪く見えるものは今悪くない

今現われているものは、過去世の因縁が現われて消えてゆく姿で

今のその人は悪くないんだと思わないと、この世はよくなりません。

「人間は神の子なんです

みんな神さまなんです

この世は神さまの世なんです

神代から始まっているのだから

その神代のことを説くのが日本神道です

人間は神だ 神の子なんだと

日本では初めからそういつているわけです

それが今改めてハッキリ説かれてるんです

私の話していることは

神道らしく話さないけれど神道なんです 法華経なんです

法華経を超えたとて神道なんです

それをやさしく説いているんです

人間は神の子なんだ

光明燦然としているものなんだ

悪はないんだ

と説いたらば

もうお前の心が悪い そんな心の影だよ

などという心の法則は一切いらないんです

それがあつたら人間は神の子でなくなっちゃう

お前は神の子なんだ 仏の子なんだ

光明燦然としているんだ

どの宗教でも教えていながら

お前が悪い とこつたのです

それは悪をいつまでも抱えていることになる

お前が悪いというのは一切いらないんです

お前が悪く見えるのも

私が悪く見えるのも すべて

みんな過去世の因縁が現われて消えてゆく姿で

今のその人は悪くないんだ

こういう見方をしなせんと

本当に人間の世界は幸福になりません」

五感六感に感ずるものの他は無いと思う考え方を捨て、宇宙の真理に基いて、自分自身や自分の身の回りの森羅万象に対し、「不調和の現象のすべては、私たちの光燦然とした本体が顕現する際に現わされているものであり、過去世の誤てる業想念が消えてゆく姿である」という見方にあらため、内なる自分の本体（神聖）と一つになった時、冒頭の、五井先生が歌に詠まれた、静寂そのものになった心境になりえるのです。